

函館市生活交通協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

函館市は、北海道の渡島半島南端部に位置し、総面積 677.87km²、東・南・北の三方を太平洋・津軽海峡に囲まれ、人口は265,979人となる。市道高松新湊線沿線に形成される住宅地は急峻な高台にあり、既存のバス停留所にアクセスが困難であったことから、高齢者の買物等による利用を主な目的として、同地域を経由し地域間幹線系統と接続する路線バス「望洋団地線」を運行することにより、地域住民の利便性向上とともに、連携する公共交通網の利用促進による地域の活性化を図っているところである。

生活交通確保維持改善計画の目標

計画目標

「望洋団地線」の利用者数(平成30年11月～平成31年9月)
1,269人以上(1便当たり3人以上)

地域公共交通の現況

- ・JR函館本線(函館駅, 五稜郭駅, 桔梗駅)
- ・道南いさりび鉄道(五稜郭駅)
- ・函館市企業局路面電車 2系統
- ・函館バス(株) 71系統
- ・タクシー 19社

協議会開催状況

- 平成30年5月28日
平成30年度第1回函館市生活交通協議会
—H31地域内フィーダー系統確保維持計画承認
令和元年6月14日
令和元年度第1回函館市生活交通協議会
—R2地域内フィーダー系統確保維持計画承認
令和元年12月26日(予定)
令和元年度第2回函館市生活交通協議会
—R2地域内フィーダー系統確保維持計画変更
—H31地域内フィーダー系統確保維持計画の
一次評価承認

令和元年度事業概要

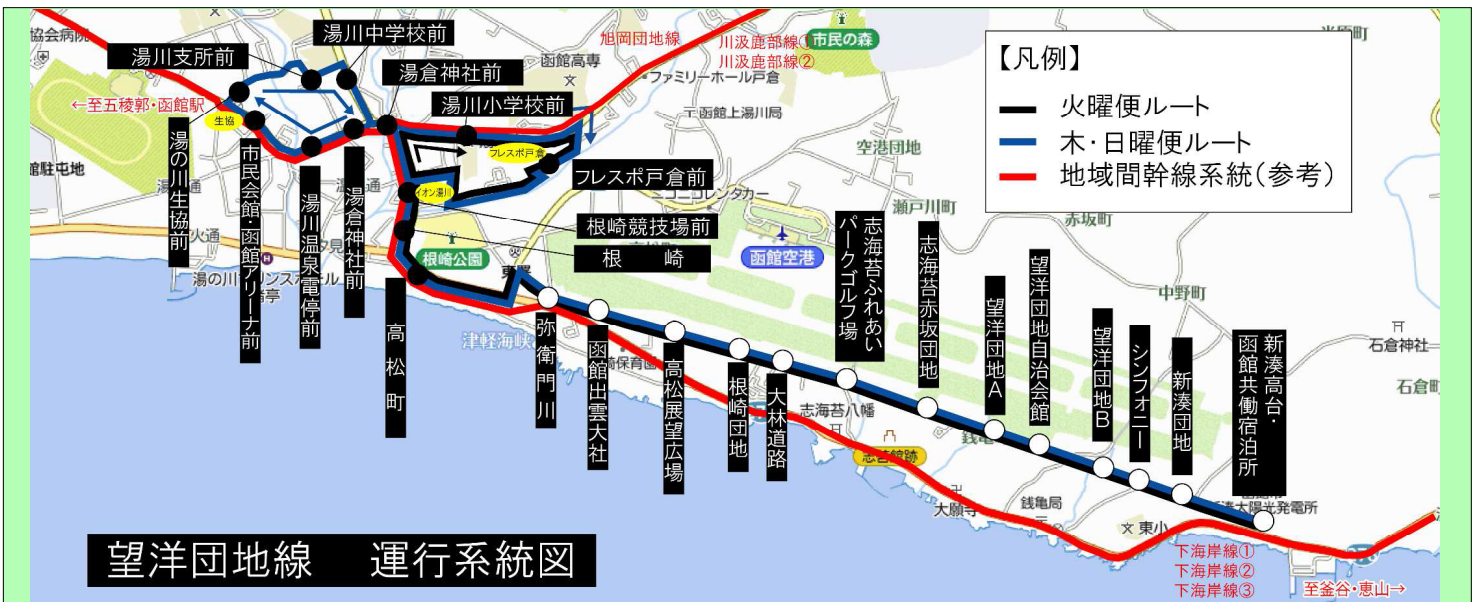
函館バス株式会社において、市道高松新湊線の終端となる「新湊高台・函館共働宿泊所」から、多くの地域間幹線との結節点となる「湯倉神社前」および周辺の商業施設を経由し、また「新湊高台・函館共働宿泊所」へと戻る循環系統を、週3日、1日3回の頻度で運行した。

令和元年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・平成28年より、沿線町会においてアンケートを実施するなどして路線を模索し、バス事業者および行政と協議
- ・平成30年11月運行開始
- ・平成30年11月1日には沿線町会、バス事業者、行政が出席し、出発式を開催
- ・運行開始後も、地元町会より沿線事業者にはたらきかけ、バス車体にラッピングを行うなど広告出稿を取りまとめている

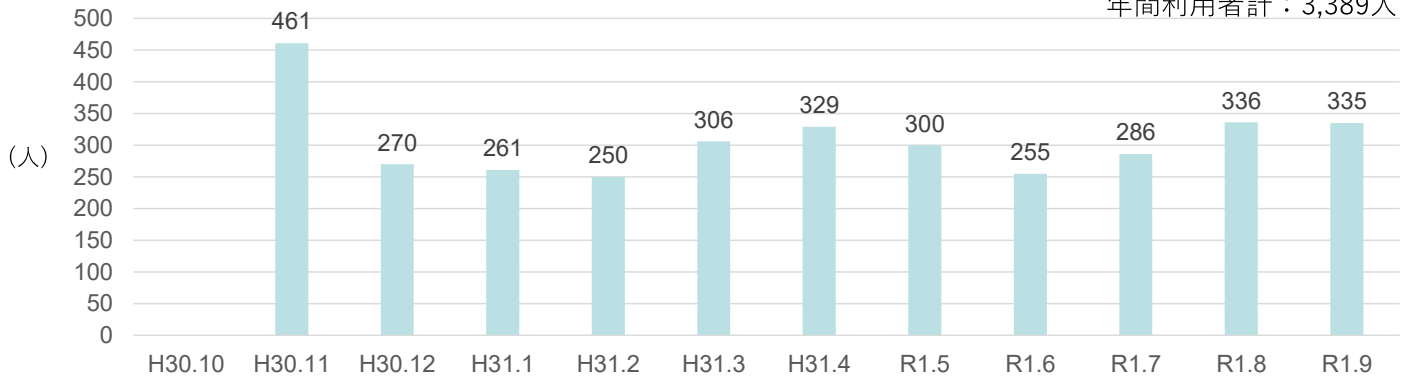
2) 運行系統



3) 利用実績

月別利用者数

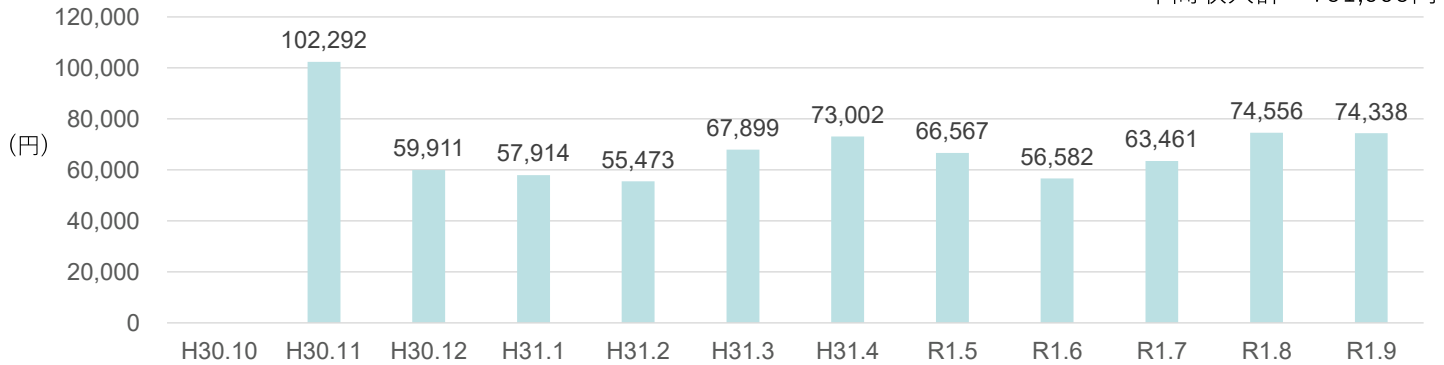
年間利用者計：3,389人



4) 収入実績

月別収入額

年間収入計：751,995円



3

5) 事業実施の適切性

計画どおりの運行がなされ、適切に事業が行われた。

7) 事業の今後の改善点

高齢者の買物等に対象を絞ったダイヤ設定を行ったが、地域住民からは、通院や下校需要への対応を求める要望が寄せられているため、令和2年1月より曜日および時刻等の見直しを行う。

また、町会が主体となって運行を開始した経緯から、沿線住民においては路線への愛着が極めて強く、情報発信のほか広告出稿の取りまとめ等に協力いただいているため、今後も地域ぐるみで路線を支えていただけるよう、ニーズにあわせた運行の実施に努める。

6) 目標・効果達成状況

生活交通確保維持改善計画では、1便あたり3名の乗車に相当する年間輸送人員1,269人を目標としたが、実績は3,389人(1便あたり約8人)となり、目標を大幅に上回った。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

後日記載

4

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和元年12月26日

協議会名: 函館市生活交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
函館バス株式会社	函館バス株式会社において、市道高松新湊線の終端となる「新湊高台・函館共働宿泊所」から、多くの地域間幹線との結節点となる「湯倉神社前」および周辺の商業施設を經由し、また「新湊高台・函館共働宿泊所」へと戻る循環系統を、週3日、1日3回の頻度で運行した。	初年度実施	A 計画どおりの運行がなされ、適切に事業が行われた。	A 生活交通確保維持改善計画では、1便あたり3名の乗車に相当する年間輸送人員1,269人を目標としたが、実績は3,389人(1便あたり約8人)となり、目標を大幅に上回った。	高齢者の買物等に対象を絞ったダイヤ設定を行ったが、地域住民からは、通院や下校需要への対応を求める要望が寄せられているため、令和2年1月より曜日および時刻等の見直しを行う。 また、町会が主体となって運行を開始した経緯から、沿線住民においては路線への愛着が極めて強く、情報発信のほか広告出稿の取りまとめ等に協力いただいているため、今後も地域ぐるみで路線を支えていただけるよう、ニーズにあわせた運行の実施に努める。

別紙1-2

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和元年12月26日

協議会名:	函館市生活交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)	函館市は、北海道の渡島半島南端部に位置し、総面積 677.87km ² 、東・南・北の三方を太平洋・津軽海峡に囲まれ、人口は265,979人となる。 市道高松新湊線沿線に形成される住宅地は急峻な高台にあり、既存のバス停留所にアクセスが困難であったことから、高齢者の買物等による利用を主な目的として、同地域を經由し地域間幹線系統と接続する路線バス「望洋団地線」を運行することにより、地域住民の利便性向上とともに、連携する公共交通網の利用促進による地域の活性化を図っているところである。